

投稿をお待ちしています。この「市民談話室」は、市民の皆さんの意見交換の場です。テーマは自由です。あなたがふだん思っていること、お書きになって気軽に寄ってください。紙面の都合上、文を短くすることがあります。あて先は、〒九五〇一―二 白根市大字白根二―三五 白根市役所企画財政課広報広聴係です。



白根市に二十一年間

もつと若い人たちが楽しめる行事を

須田博樹さん（南新町・会社員・22歳）

僕は生まれてから二十二年間、白根市に住んでいます。僕が幼かったころと比べると、白根市もだいぶ発展してきたと思います。

それは、昔から白根市を農村地域と言っていますが、今では建物が増え、そして、イメージ

チェンジしたシヨールームが多く見られるようになり、また、あちこちの所でたんぼが埋まり、高級住宅などのいろいろな建物が出来ているからです。その建物の中でも白根市の目印になっている所が、かなりあるそうです。

農業に支えられて発展した日本経済

桑原作一さん（庚・農業・61歳）

農本主義とか、農は国の基など書くと、時代感覚がずれているのではないかと思われるかもしれません。

今からだいぶ前の話です。おいの結婚式で、おいの勤務先の社長さんと同席し、たまたま農業問題の話となりました。

戦中戦後の食糧難時代、農家にはたくさんの疎開者がいたように、昔から国の経済力が極度に弱まったときは農業に支えられてきました。その疎開していた人たちが都会に帰り、経済発展に力を注ぎ、ここまで成長してきました。しかし、農業は依然として底

白根市の人口も増加している。将来は十万人以上の都市になればいいなと思っています。

農業に支えられて発展した日本経済

桑原作一さん（庚・農業・61歳）

辺にいます。しかも最近では外国の米が安いとか、牛肉が安いとか言う心ない人もいるようです。もし何か異変でも起きたらなどうなるのか心配です。

その社長さんも同感され、自分も終戦後、奥さんの実家で一年半ぐらい食べさせてもらって来たことを、私に話してくれました。

その話を聞いて私はびっくりし、今日の主客にとんでもないことを申し上げてしまった無礼をおわびしました。華やかな芝居にも裏方があり、高度成長の基は農業だと思っています。



11月3・4日に行われた青年の祭典は、市内でいちばん大きな青年の行事です

人物伝の蛇足

歴史のページをひもとく

東樹友次さん（鯉沼・無職・72歳）

「有志者事竟成」――これは文学博士 星野 恒さんの書かれた字句です。父が物好きで買集めて、三代目の当主に伝存され、今も掲げてあります。「王子春仲豊城恒時七又四」とありますから、大正元年の中春、七十四歳に書かれた物で、大切に保存してあります。

真保一輔さんは、私が旧小林村役場へ自転車で通勤していたころ、土曜日になると、まるで判で押したかのように行き違う

家庭教育の大切さを身にかけて感じる

大旗イツさん（和泉・農業・55歳）

孫の子守りに明け暮れる毎日。一日休んで、「教養講座学びの旅」に参加しました。

孝心の深さは、人に知られない一面ではないかと思ひ、書きつづってみました。吉原芳仙画伯の遺作展が、昨年の五月に開かれ、皆さんもご存じのことと思います。芭蕉堂、林正寺境内良寛地蔵堂へ押寄せられ、その足跡は点々と輝かしさを増してゆくものでしょう。

子守の責任の重大さを思い、毎日の積み重ねの教育がいちばん大切なことだと思っています。我慢・努力・勇気のある子供に育ててほしいなと思っています。

旅は楽しいものと思ひながら、なかなか出られないもので、ひさしぶりに草津温泉で一泊しました。

「料理を習いたいね」などと友達と話しているときに、青年スクールのことを知り、料理コースに入りました。

この一年間、中学生時代の同級生や、いろいろな年代の人たちと学習や話し合いをすることができて、



関川静江さん（旭町2-23歳・会社員）

よかったなあと思います。だけど、肝心の料理の腕前はイマイチ上達しませんでしたね。勤務先が新潟だからなさら感じるんでしょうか。白根市は活気のない所だと思ひます。市全体の共通した行事、祭りなどがなければ、そんなふうにも思えるのかな？結婚はまだまだ考えていませんが、理想のタイプは、いつも楽しくて、気を使わなくてもいい人がいいですね。自分が結婚したいなと思うときが適齢期だと思うから、全然あせっていません。

俳句

学齡の天神様へ初詣で

大旗 豊治

くじ引きの列長々と目のかける

小林キミイ

柵の花見りや浮ぶ父の顔

玉木 長吉

初春や仄かににおう寒梅の

渡辺 勤

川柳

美しい指から裂けた夫婦仲

織田 セツ

買溜り抜けて大器の貌となる

田村 恒夫

色眼鏡掛けて真実から逃げる

渡辺 ミヨ

戯れの尻にかかった不眠症

佐藤 ヨキ

弁当に小言も詰める倦怠期

今井 タエ

十指から子へそれぞれの愛配り

後藤 マサノ

誤解したまま悔恨の指を咬む

竹石 甚五

手を出せば娘の指太く親ゆすり

田中 成子

しなやかな指が男の骨を抜く

佐藤 トミノ

腕白の弁当顔で食べている

山岡 フミ

シーソーの真中に立つ一人っ子

今井 七郎

減税と言う机上論の空手形

吉川 末吉

母の手に重さが丁度よい重石

高橋 祐四雄

当選をすると遠縁近くなる

吉川 彰

天網は疎にしてかいて人捕まらず

中村 尚治

家計簿の帳尻合わせ妻の才

岡村 清

満場を沸せて講師汗を拭く

西条 ムラ

初春に吹く風が静かに燃えている

長井 徳市

握手した手の内側に良芽生え

野内 熊太郎

一年がたちまち過ぎる老齢期

米野 光雄

短歌

春日和干した布団の陽の香り

大野 タケノ

暮々し暖冬の野に霧たちて

中村 京

結婚はまだまだ考えていません